

千葉市の教育に関する大綱

○生涯を通じたキャリア教育の推進

- ・市民の生活基盤確立と都市を支える人材の育成・確保のため、経済部門等と連携し、雇用等の社会ニーズを踏まえた取組みが進むよう、職場体験や進路指導体制の充実など、教育課程でのキャリア教育の見直しを進めます。
- ・加えて、実社会に出た後に知識や技術を身に付けることができる環境を整えるなど、市民の生涯を通じたキャリア教育を推進します。

27年度の取組み

庁内外の関係機関と連携・協働して、生涯を通じたキャリア教育を推進するための組織として「**キャリア教育推進連携会議**」を設置し、平成28年3月に第1回会議を開催。



◆構成メンバー

- ・鹿嶋座長（千葉商科大学教授）
- ・小中学校校長会代表、小中学校キャリア教育担当
- ・市立高校キャリア教育担当職員
- ・大学・専門学校関係者（敬愛大、千葉大、ポリテク）
- ・企業、産業界関係者（伊藤工務店、千葉労働局職業安定部、JFEスチール東日本製鉄所、ウェザーニューズ、キッツ、イオン）

※事務局 経済企画課、教育委員会企画課・指導課

キャリア教育推進連携会議における議論

◆第1回会議(3月14日開催)での主な意見 (議題:自由討議)

- ・就職する前に、人との付き合い方や、自分が周囲とどのように関わって、どのように課題を処理していくか、というような能力を高めてほしい。
- ・主体的に行動する意識を、就職してからの短期間で変革させることの難しさを毎年痛感しているので、学校教育を通した取り組みが必要。
- ・具体的な仕事への気づきは小・中学生にはまだ早く、高校生や大学生の段階が適当だろう。小・中学生は「働く」ことに関して感じる部分を大事にしたい。
- ・校長会でもCCIちば(千葉県魅力ある建設事業推進協議会)について説明をさせてもらったが、日程調整が難しい学校が多い。外部人材を招くにも費用がかかる。
- ・キャリア教育について、若い教員が学んだり、様々な情報を得たりする機会を増やしてほしい。
- ・職場体験先の確保は、教員の大きな負担になっており、教育委員会には職場体験事業をコーディネートする役割を果たしてほしい。また、職場体験の目的やお願いしたいことなど、事業所に提示する依頼資料を作成してほしい。

◆第2回会議(6月30日開催)での主な意見 (議題:小中学校でのキャリア教育の在り方、教員研修について)

- ・学校全体でキャリア教育の目的を共有し、各教科でキャリア教育の視点をもって小さなことでも継続的に取り組むことが重要。
- ・小学校段階では、身近な人や社会とのかかわりの中で、役割分担をして社会が成り立っていることを理解することが大切。
- ・企業名だけで就職を希望して、やりたいことや夢を思い描けない者は離職率が高い。
- ・多様な働き方が認められる中で、フリーターやニートをどのように教えるべきか。保護者が非正規雇用である場合もある。
- ・大学では内定率を算出することもあり、正規で雇用されることを重視して進路指導を行っている。
- ・職場体験については、体験先に学校のねらいやモデルを事前に説明して実施することが重要ではないか。
- ・工業系の企業であったとしても、危険を伴う業務だけでなく、顧客対応業務や広報業務など中学生でもできる体験はある。
- ・ひとつの作業を体験する職場体験ではなく、例えば製造から流通までのつながりを知ることができれば、視野が広がる。
- ・教員研修では、社会のニーズや職業に関する情報を収集できる能力を身に付けさせることが必要。

◆第3回会議(8月31日開催)での主な意見 (議題:高等学校・大学でのキャリア教育の在り方)

- ・小中での職場体験活動が高校につながっていない。高校でのインターンシップの機会を広げることが必要。また、職場体験は発達段階に応じた目的を設定して実施することが重要。
- ・千葉工業高校の理数工学科のように、大学進学を意識した高等学校の専門学科もある等、最新の中学校の教員や保護者に専門高校の実態を知ってもらうことが重要。
- ・これまで専門高校として、地元への就職率を維持・向上させる検討が十分でないところもあった。一方で、例えば最初から自動車産業に就職することを目指して県外に出る生徒の考えも尊重したい。
- ・稲毛高校での千葉市の課題に取り組む探究活動はキャリア教育の視点も含まれている。千葉市の公的な課題だけでなく、千葉市の産業界の課題なども取り扱ってみてはどうか。
- ・高校生は部活動や授業などで忙しく、活動に割くことのできる時間の捻出が課題である。また、高校でキャリア教育を進めるためには、教員研修が必要。
- ・千葉大学では、産官学連携を通じ学業の進展と社会貢献の両立をめざす文教型インターンシップを実施している。実習などでは、知識をどう生かすのかが重要であり、学力向上を意識している。
- ・敬愛大学では、インターンシップと併せて、企業に協力いただき課題解決型の授業をプログラムに組んでいる。企業から提供された課題に取り組み、解決案を立案したり、評価を受けたりする中で、社会とのつながりがどういうものなのかに気付く。
- ・企業の方が大学の非常勤講師となることで企業側にもメリット(反響)がある。
- ・期間(1日・3日・10日)等で多様なインターンシップを用意している。また学生が参加しやすいよう広報が重要。
- ・職業訓練を実施していると、就業体験の少ない人が苦勞していると感じる。高校や大学時代に補ってほしい。
- ・10年後には、多くの仕事がなくなると言われているが、どのような職業についても基礎的な学力が重要。

⇒今後、2回程度会議を開催し、平成28年度中に「**キャリア教育の基本方針**」を策定

28年度の主な実施事業

①小中学校「キャリア教育モデルプラン」の作成

各学校でキャリア教育に関する全体の指導計画を作成するための指針となるプランを作成。（平成28.29年度）

②キャリア教育推進連携会議での議論を踏まえた中学校副読本の改訂

中学校の副読本「私の夢」「ハローマイフューチャー」の29年度版について、資格に関する情報や専門学科等に関する内容を追記する方向で改訂作業を実施。

③ものづくりマイスター＜千葉県職業能力開発協会及び千葉県技能士会連合会＞

技能士等が学校を訪問し、授業時間内に児童にもものづくりの指導を実施。

④実践的なキャリア教育を実施するための教員研修プログラムの開発

教員の10年経験者研修における民間の事業所等で実体験を行うというプログラムを見直し、民間企業が抱える課題を題材とし、経済状況や雇用情勢を理解した上で、それらの課題解決を提案するという研修プログラムを開発。

⑤放課後子ども教室におけるキャリア教育につながるプログラムの充実

教育委員会に配置した総合コーディネーターが、企業や大学等の協力を得て、子どもたちの「学ぶきっかけ」になるような「放課後子ども教室」のプログラムを開発・提供。

⑥ちばっ子商人育成スクールの実施

起業体験や仕事体験を通じて会社の仕組みや働くことへの理解を深める教育プログラムの提供
ア、西千葉子ども起業塾（小学生：千葉大学） イ、中学生のための起業体験講座（中学生：東京情報大学）
ウ、幕張新都心ビジネススクール（高校生：神田外語大学） エ、夏休みおしごと感動体験（小学生：敬愛大学）

⑦千葉労働局との連携における協議

労働局と雇用対策協定を締結し、大学生等を対象としたインターンシップの拡充をはじめ、小中学校生を対象とした仕事体験等の取り組みの促進等、産業界が求める人材の育成の具体的な連携事項について協議。

参考：ちばっ子商人育成スクール

西千葉子ども起業塾

小学生向け

- ・小学生4～6年生向け。千葉大学教育学部(藤川研究室)との共催。
- ・H26からJFEスチールの協力のもと実施。B to B型が特色。
- ・参加者 H28:22名 →H28:57名
- ・仮想の「子ども会社」を設立し、仮想通貨を運用するなど、企業・経営の体験を積むことで、アントレプレナーシップの喚起・涵養を図る。

中学生のための起業体験講座

中学生向け

- ・H26から実施。若葉区内の中学生が対象。東京情報大学樋口准教授のプログラムのもと実施。
- ・若葉区民まつりへの出店を通じて、会社設立、事業計画策定、資金集め、事業実施、会社清算を経験する。
- ・H28から四街道市との連携がスタート。四街道市の生徒も対象とし、四街道市の経営者の講義も予定している。

幕張新都心ビジネススクール

高校生向け

- ・神田外語大学キャリア教育センターとの共催。市内在住・在学の高校生が対象。
- ・将来の進路選択や就職活動に繋がるきっかけの付与。
- ・幕張新都心に所在する企業の経営者等による講義や、若手社員との交流、会社見学を実施。
- ・外語大らしさを出すため、講義の一部に英語でのトレーディングゲームなどを盛り込む。

夏休みおしごと感動体験

小学生向け

- ・H26から実施。小学3～6年生を対象。
- ・敬愛大学の協力を得て実施。千葉駅前の百貨店、事業所等での職業体験イベント。
- ・H28の体験枠は1,126人分を用意。

① 社会人基礎力の育成

社会的・職業的自立のために必要な基礎的・汎用的能力（コミュニケーション能力、熱意・意欲、行動力・実行力など）を育成すること

■教育課程における「キャリア教育」の位置づけの明確化

- ・ 研究校による実践及びモデルプランの作成
- ・ 働く上で必要となる一般的基礎知識（法律や税の仕組みなど）に関する教育の充実
- ・ S S Hなどの取組みを通じた実践的活動の充実（市立高校）

■職業体験活動の質的・量的な見直し

- ・ 中学校における職場体験活動の抜本的見直し
- ・ 放課後子ども教室の活用
- ・ 「西千葉子ども起業塾」「中学生のための起業体験講座」「幕張新都心ビジネススクール」「夏休みお仕事体験」の充実

② 進路指導

■将来を見通した進路指導

上級学校や職業への円滑な移行を指導・支援すること

- ・ 社会ニーズや職業に関する最新情報を生徒や保護者に提供できる教員の確保（採用での社会人特例枠の設定、民間企業との人事交流、研修内容改善・充実等）
- ・ 経済団体関係者など外部の意見を取り入れた進路学習ノートの改訂
- ・ 進路指導主事とキャリア教育主任の連携促進
- ・ 退学者（特に専門高校退学者）を減少させるための進路指導の改善

③ 職業教育

■県立高校との連携

一定または特定の職業に従事するために必要な知識、技能、能力や態度を育成すること

- ・ 専門高校に関する生徒・保護者の理解促進
- ・ 県立高校の前期入試の定員制限廃止や総合学科への移行に関する生徒・保護者への周知

■大学等との連携

- ・ 大学の特徴に応じた職業教育に対する支援、連携
- ・ 市内企業でのインターンシップ、合同企業説明会等の開催

■社会人の学び直し・キャリアアップ

- ・ 生涯学習施設と大学・専門学校等との連携

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育成すること（職業教育も含む）

就学前

小学生

中学生

高校生

大学生・短大生
専門学校生等

社会人

生涯を通じたキャリア教育